



吸気，制御系統

吸気系統図	5 - 2
制御系統図	5 - 3
構成部品および締め付けトルク	5 - 4
SST, 工具, 計器	5 - 5
エア フロー メータ	5 - 5
スロットル ボデー	5 - 7
サージ タンク	5 - 12
インテーク マニホルド	5 - 15
サーキット オープニング リレー	5 - 18
スタート インジェクタ タイム スイッチ	5 - 19
エア パルプ	5 - 19
メイン リレー	5 - 20
水温センサ	5 - 22
ソレノイド レジスタ	5 - 22
コンピュータ	5 - 23
フューエル カット機能点検	5 - 27

吸気系統図

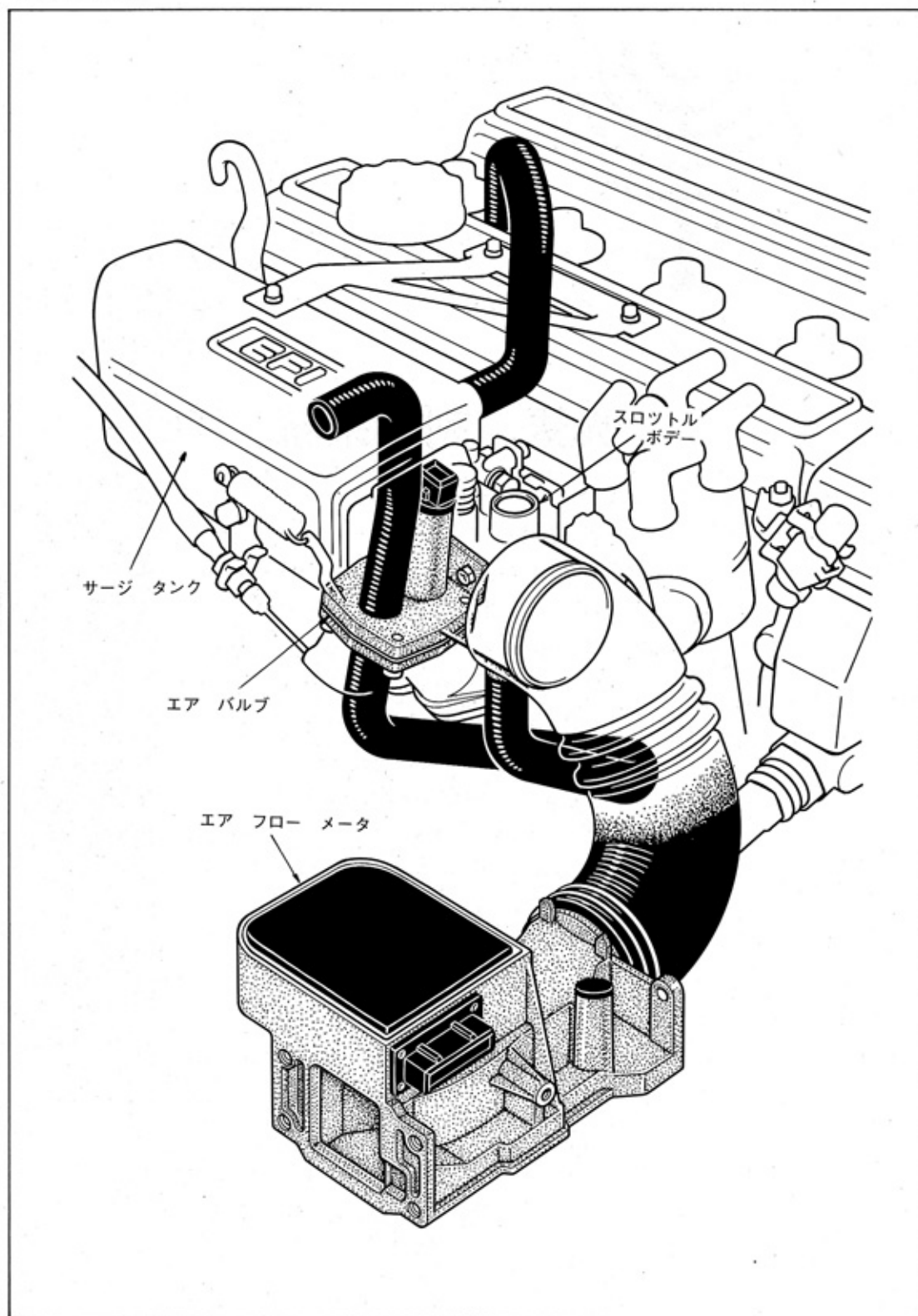
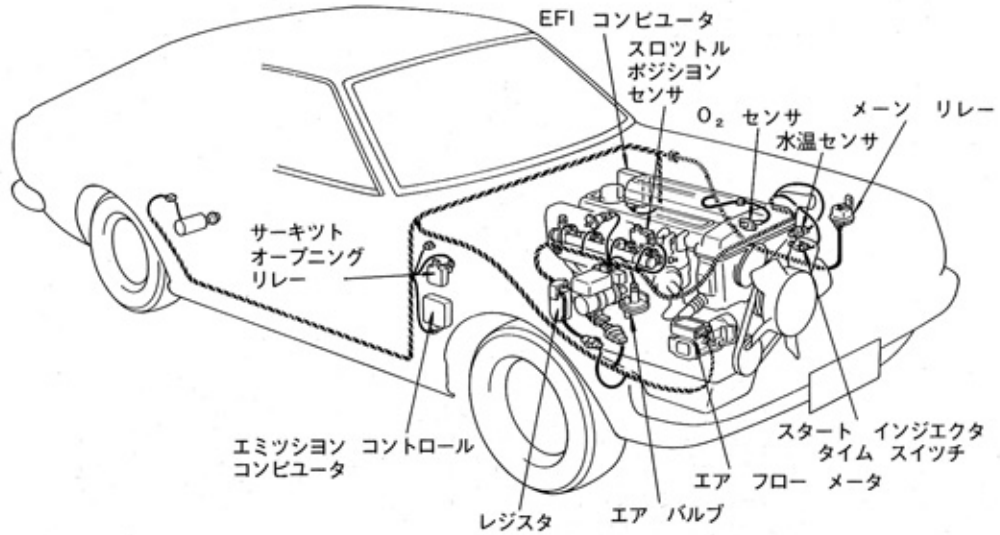


図5-1 吸気系統図

M6080

制御系統図

E-TE55, 65系
E-TA系



E-TE71系

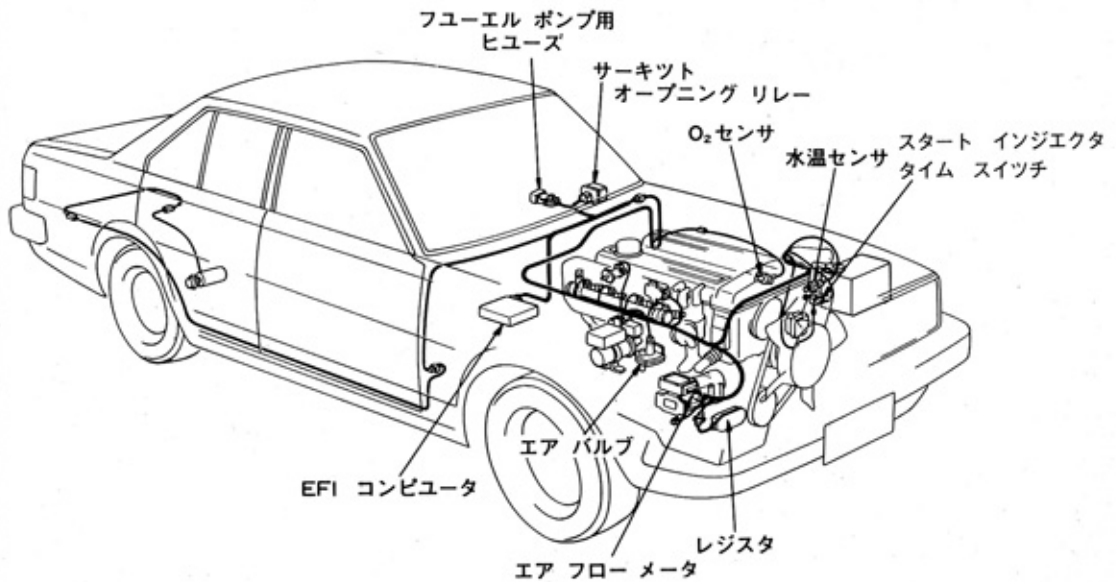


図5-2 制御系統図

M5839 M9642

構成部品および締め付けトルク

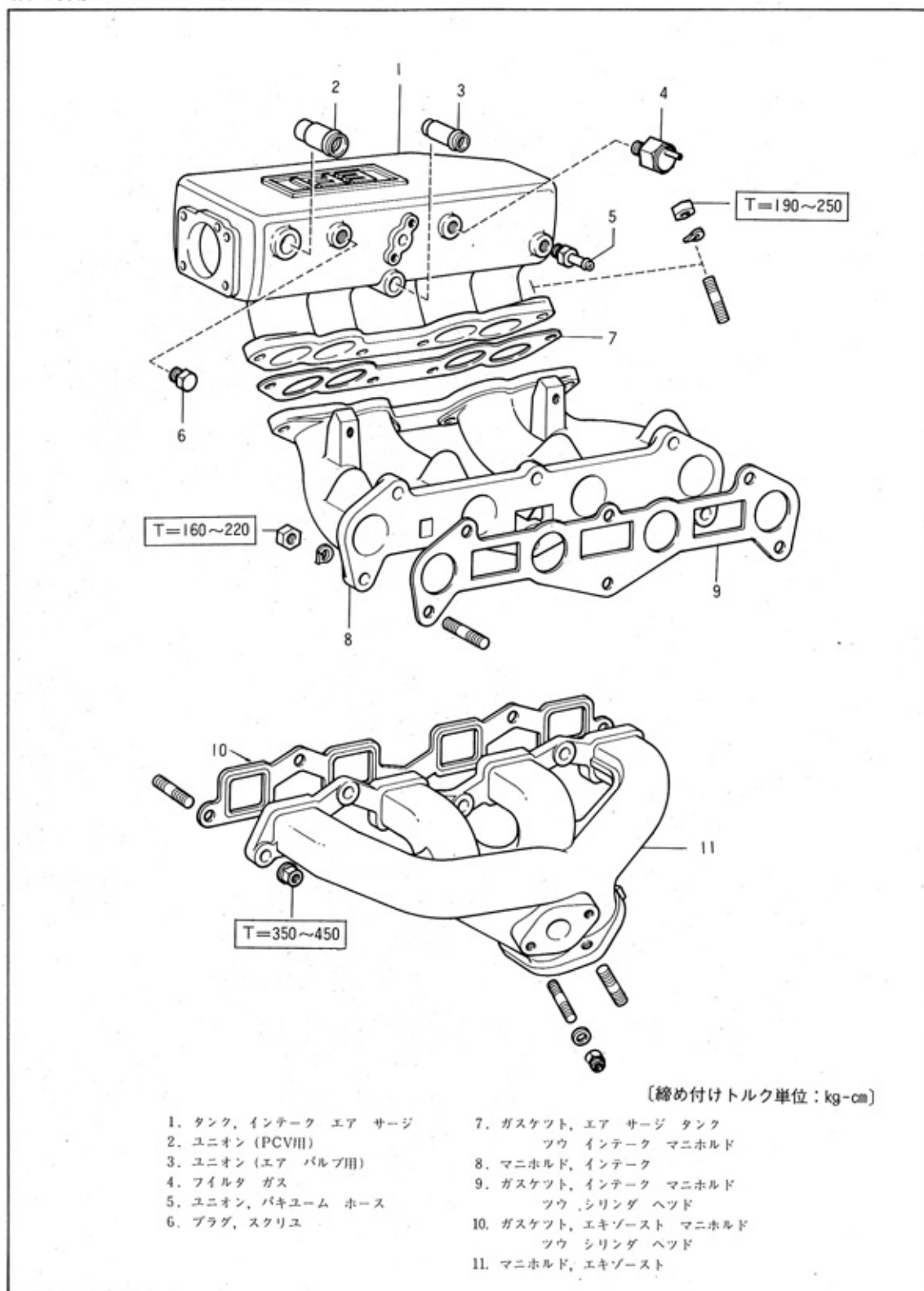


図5-3 構成部品および締め付けトルク

M5841

SST, 工具, 計器

S S T		09842-30011	ワイヤ セット, EFI インспекション
計 器	直定規, 直角定規, シツクネス ゲージ, サーキット テスタ 燃圧計		

図5-4

エア フロー メータ

車上山検

コネクタを取りはずし, 各端子間の抵抗を測定する。(メジャーリング プレート全閉時)

端子	抵抗値(Ω)
$E_2 \leftrightarrow V_s$	20~100
$E_2 \leftrightarrow V_c$	100~300
$E_2 \leftrightarrow V_B$	200~400
$E_2 \leftrightarrow THA$	-20℃ 10000~20000
	0℃ 4000~7000
	20℃ 2000~3000
	40℃ 900~1300
	60℃ 400~700

〈要点〉

外気温はエア フロー メータの周囲で測定すること。

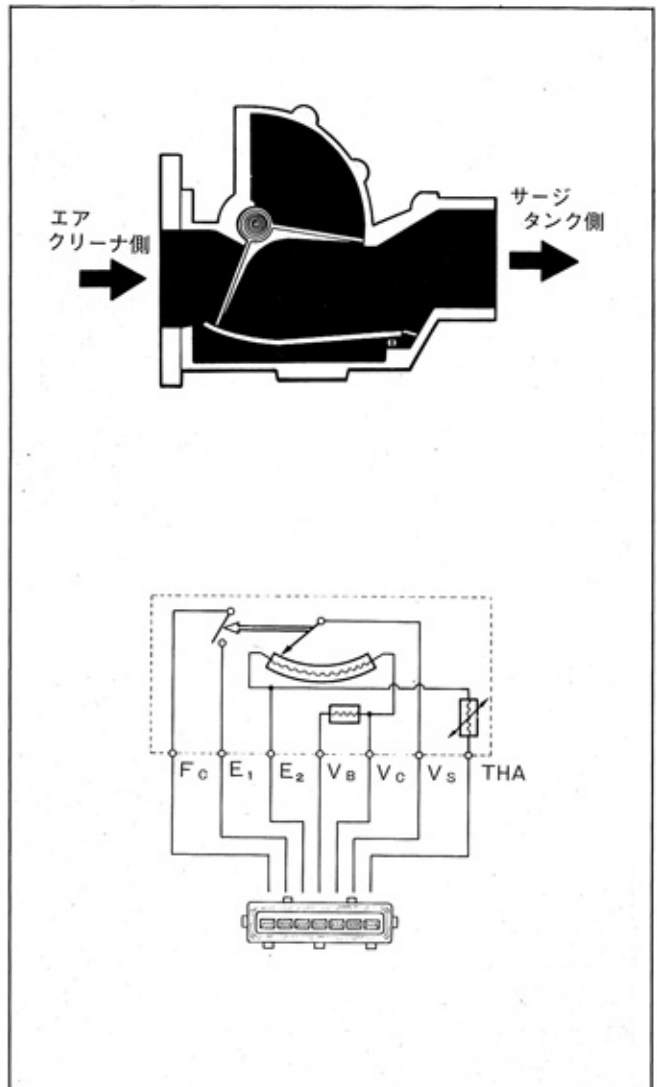


図5-5 エア フロー メータ抵抗点検

M2891 S8345

取りはずし

(1) 次の部品を取りはずす。

- ① バッテリ ⊖ 端子
- ② エア クリーナ コネクタ
- ③ エア クリーナ ケース & エレメント
- ④ コネクタ
- ⑤ エア クリーナ ホース
- ⑥ エア フロー メータ

----- (注意) -----

エア フロー メータは衝撃を与えないよう、取り扱いには充分注意すること。

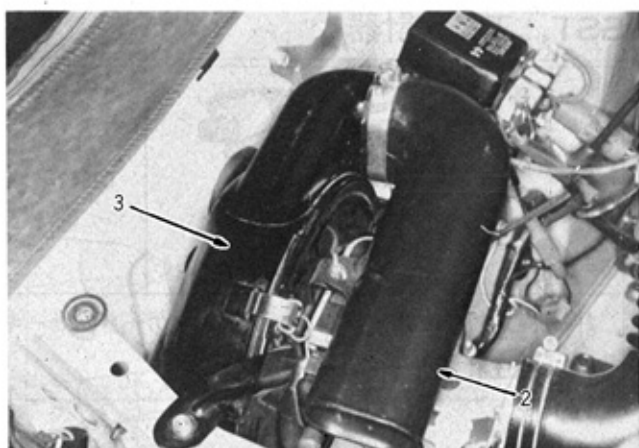


図5-6 エア クリーナ取りはずし

H 4133

点 検

(1) 次の点検をし、不良の場合は交換する。

- ① ボデーのき裂
- ② シヤフトのガタ
- ③ メジャーリング プレートの引っかけ
- ④ 端子間の導通および抵抗

車上点検のほかに次の点検を行なう。

a. メジャーリング プレートを少し押しあける。

$E_1 \leftrightarrow F_c$ 間 導通あり

b. メジャーリング プレートを全開する。

$E_2 \leftrightarrow V_s$ 間 20~1000Ω

----- (注意) -----

メジャーリング プレートを全閉から開いていくと抵抗値は20~1000Ωの範囲を大~小~大と変化しつつ大きくなる。

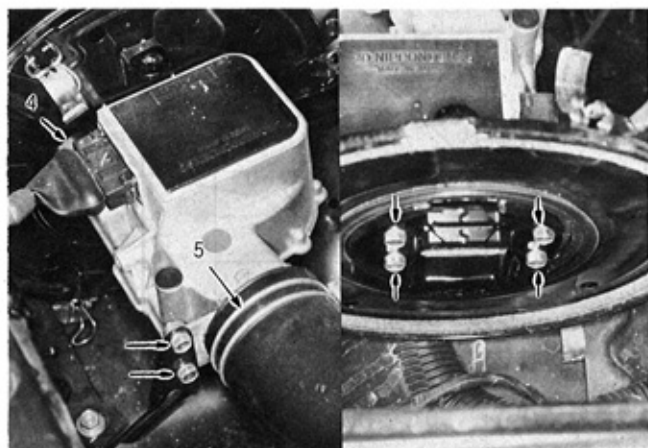


図5-7 エア フロー メータ取りはずし

H4134 H4135

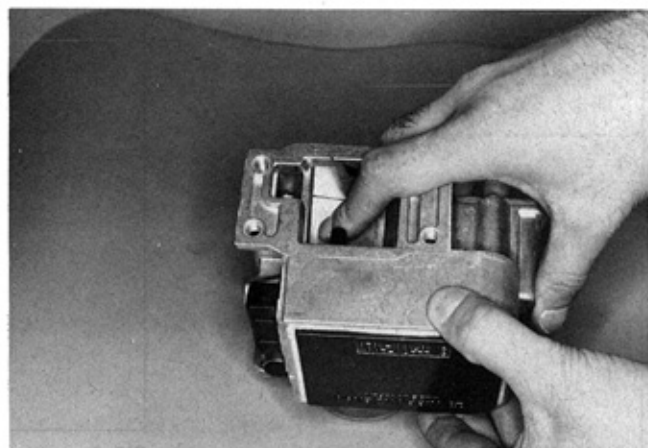


図5-8 エア フロー メータ点検

H4136

スロットル ボデー

車上点検

(1) スロットル バルブ取り付け位置
点検

- ① エンジンを始動する。
- ② パキユーム ゲージをスロットル ボデーのアドバンス ポートに接続する。
- ③ アイドル回転中はゲージの指示が0（大気圧）であること。
- ④ スロットル バルブを少し開いたときパキユームがかかること。

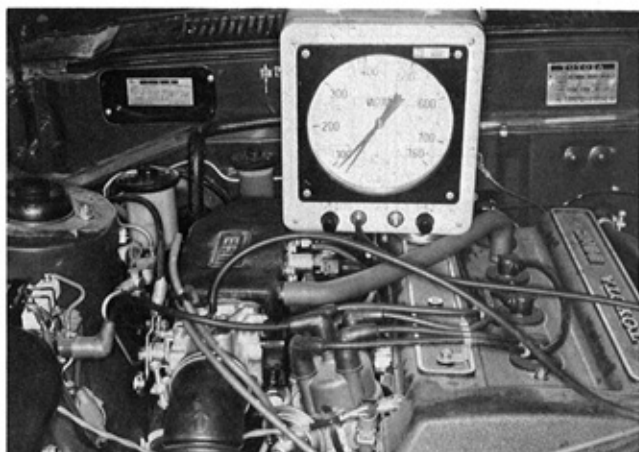


図5-9 スロットル バルブ セット位置点検

H4137

〔注意〕

この点検で異常のあるときは、次のスロットル ポジション センサ取り付け位置にも影響があるため、取りはずして単体点検を行なうこと。

(2) アクセル ワイヤの作動が円滑であり、ストップ ボルトとスロットル レバーの間にすき間がないこと。

(3) スロットル ポジション センサ導通点検

コネクタを取りはずし、各端子間の導通を点検する。

スロットル バルブ開度 (参考) [全閉より]	ストップ ボルト とリップのすき間	IDL↔TL	PSW↔TL	IDL↔PSW
1.5° 以下	0.34mm	導通あり	導通なし	導通なし
2.0° ~40°	0.7mm(2°)	導通なし	↑	↑
約40° 以上	—	↑	導通あり	↑

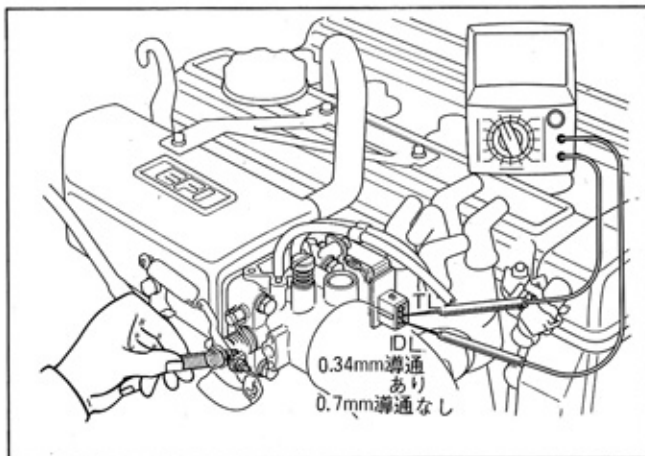


図5-10 スロットル ポジション センサ点検

M5840

取りはずし

- (1) 冷却水を汚ほど抜き取る。
- (2) スロットル ボデー ホースNo. 1, No. 2 をスロットル ボデー側で取りはずす。
- (3) 次の部品を取りはずす。
 - ① バッテリ ⊖ 端子
 - ② エア クリーナ ホース
 - ③ スロットル ポジション センサ コネクタ
 - ④ パキユーム ホース
 - ⑤ エア バルブ ホース
 - ⑥ アクセル ワイヤ
 - ⑦ テンション スプリング
 - ⑧ スロットル ボデー

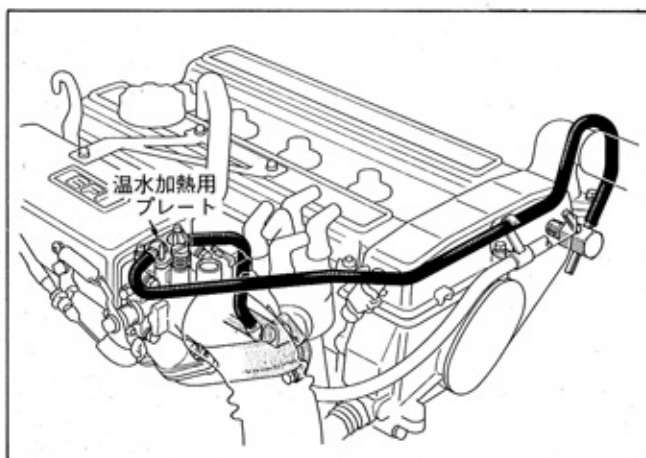


図5-11 ウォータ バイパス ホース取りはずし

M6065

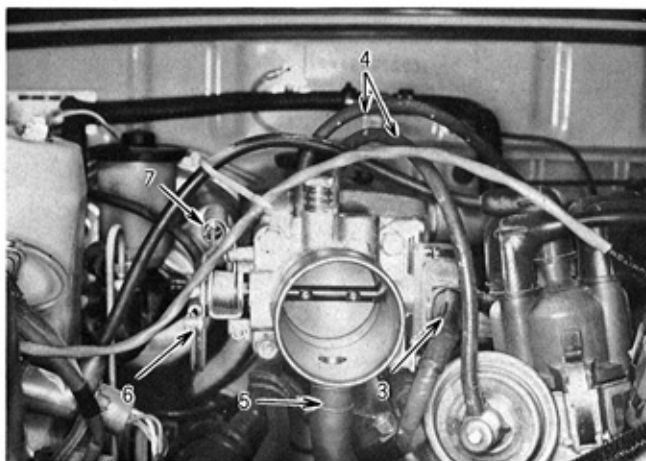


図5-12 スロットル ボデー取りはずし

H4138

点検, 調整

- (1) スロットル ボデー本体点検
 - ① スロットル バルブ シヤフトのガタ
 - ② スロットル ボデーのき裂
 - ③ 各ポートのき裂

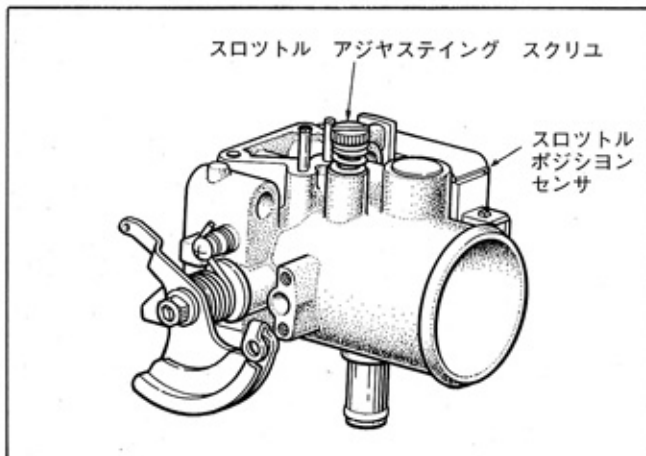


図5-13 スロットル ボデー点検(1)

M5804

- ④ スロットル バルブを全閉、全開し動きがスムーズであるか。
- ⑤ スロットル バルブ全閉位置でストツパ ボルトとスロットル レバー A部にすき間がないこと。
- ⑥ スロットル バルブ全閉位置でアドバンス ポートがスロットル バルブに対して右図のような位置にあること。

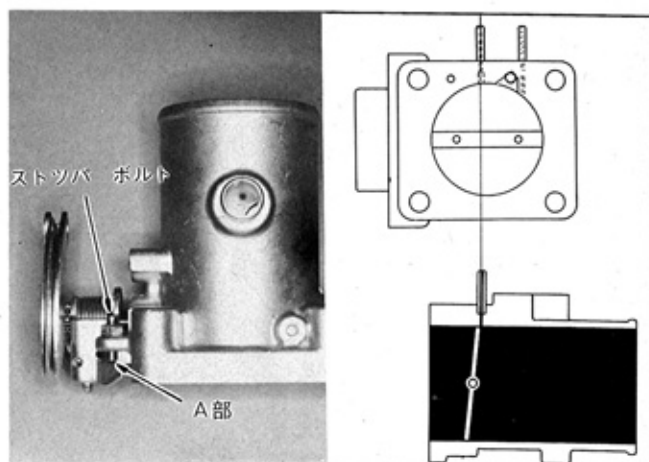


図5-14 スロットル ボデー点検(2)

H4139 M5828

(2) スロットル ボデー本体調整

車上点検や単体での点検⑤、⑥で異常のある場合は次の要領で調整を行なう。

----- (注意) -----

スロットル バルブ、ストツパ ボルトは出荷時厳密に調整してあるため、必要時以外は調整を行なわない。

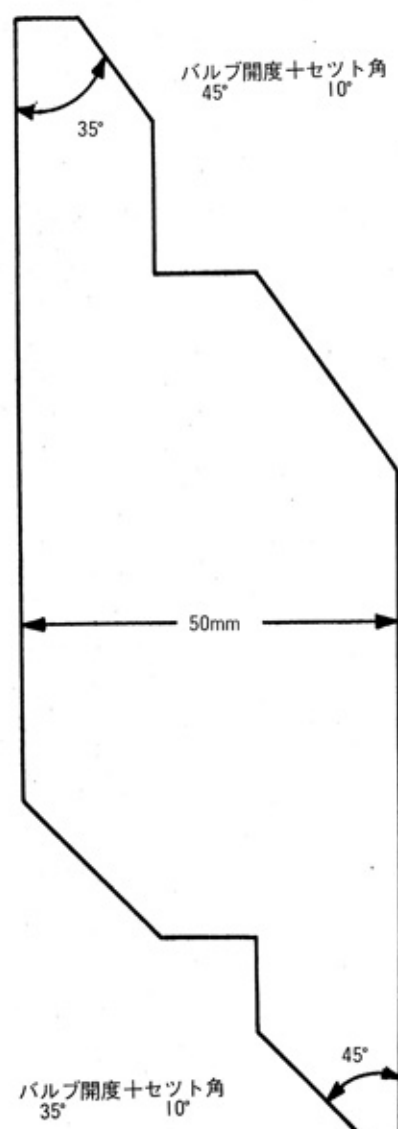
- ① ストツパ ボルトのロック ナットをゆるめ、ストツパ ボルトがA部と接触しない位置までゆるめる。
そのとき、スロットル バルブが全閉しており、アドバンス ポートが完全に大気圧側にあること。
- ② スロットル ボデーをエンジンに取り付け、各配管を行なつてエンジンを始動する。
- ③ アドバンス ポートにバキューム ゲージを接続する。
- ④ ストツパ ボルトを締め込んでいきA部と接触した位置より $\frac{1}{4}$ 回転締め込んだ位置でロック ナットをロックする。その後前記のテストを行なう。

(3) スロットル ポジション センサ

- ① 車上天検のほか、次のバルブ開度のときの端子間の導通を点検する。

 (要点)

下記型紙(実寸)を作成して行なうとよい。



スロットル バ ルブ開度 (全閉位置)	IDL↔TL	PSW↔TL	IDL↔PSW.
35°	導通なし	導通なし	導通なし
45°	↑	導通あり	↑

 (参考)

バルブ開度約40°でパワー接点がONする。

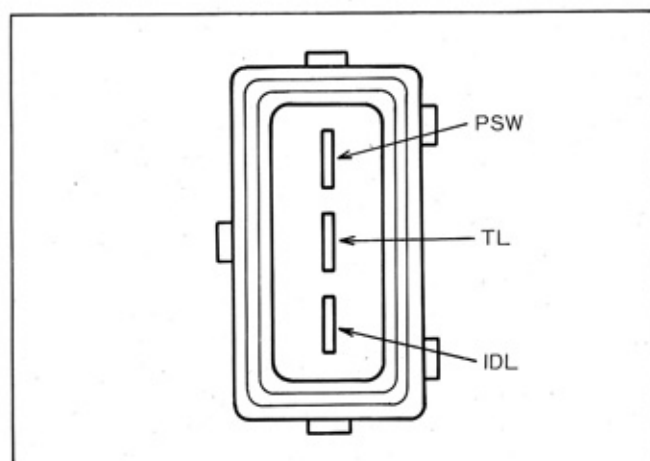


図5-15 スロットル ポジション センサ コネクタ M5807

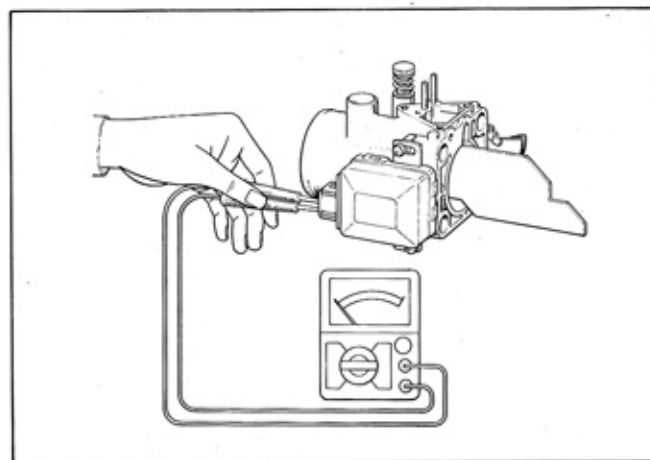


図5-16 スロットル ポジション センサ点検 M5829

② 調整

次の順序で取り付け位置の調整を行なう。

- a. 取り付けボルト2個をゆるめる。
- b. スロットル レバーとストツパ ボルトの間に0.52mmのシツクネス ゲージをはさんだ後, IDL \leftrightarrow TL間にテストを接続し導通がOFFの範囲からセンサを矢印方向に回し導通がONになる瞬間の位置で固定する。
- c. スロットル レバーとストツパ ボルトの間に下表のシツクネス ゲージをはさみIDL \leftrightarrow TL間の導通を点検する。

シツクネス ゲージ厚さ	IDL \leftrightarrow TL
0.34mm	導通あり
0.7mm	導通なし

取り付け

(1) 次の部品を取り付ける。

- ① スロットル ボデー
T=100~160kg' -cm
- ② テンション スプリング
- ③ アクセル ワイヤ
- ④ エア バルブ ホース
- ⑤ パキユーム ホース
- ⑥ スロットル ポジション センサ コネクタ
- ⑦ エア クリーナ ホース
- ⑧ バッテリ \ominus 端子
- ⑨ スロットル ボデー ホースNo.1
No.2
- ⑩ 冷却水

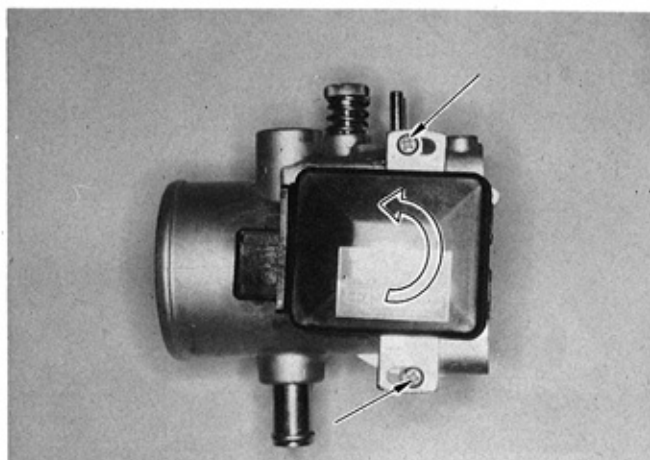


図5-17 取り付け位置調整

H4140

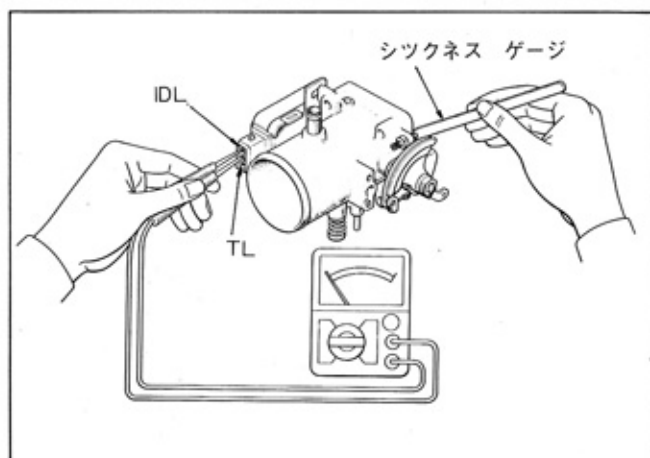


図5-18 調整後の点検

M5830

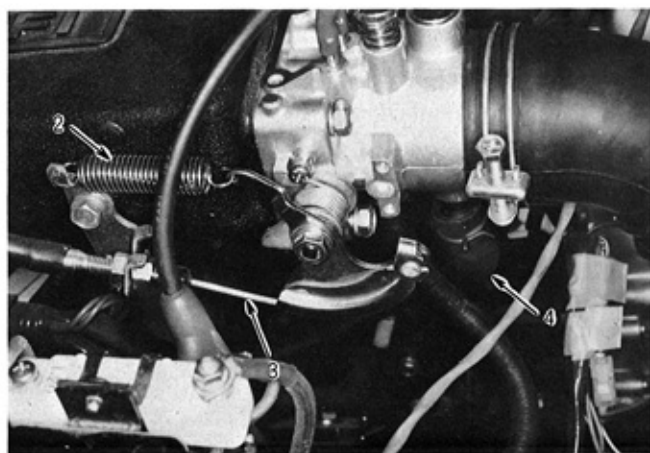


図5-19 スロットル ボデー取り付け

H4141

サージ タンク

取りはずし

(1) 次の部品を取りはずす。

- ① バッテリ ⊖ 端子
- ② エア クリーナ ホース
- ③ ステア
- ④ 各ホース
- ⑤ コールド スタート インジェクタ用コネクタ
- ⑥ コールド スタート インジェクタ
- ⑦ スロットル ポジション センサ用コネクタ
- ⑧ スロットル ワイヤ
- ⑨ エア バルブ接続ホース
- ⑩ サージ タンク & スロットル ボデー

----- (注意) -----

冷却水を多少ほど抜きスロットル ボデー
 - ホース No.1, No.2 を取りはずし
 ておく。

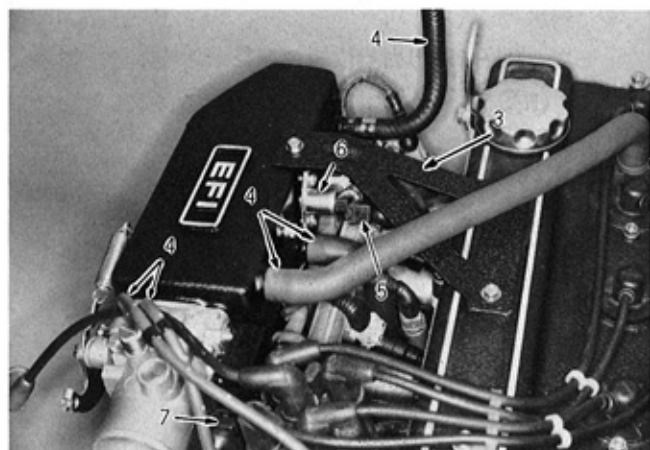


図5-20 サージ タンク取りはずし(1)

H4142

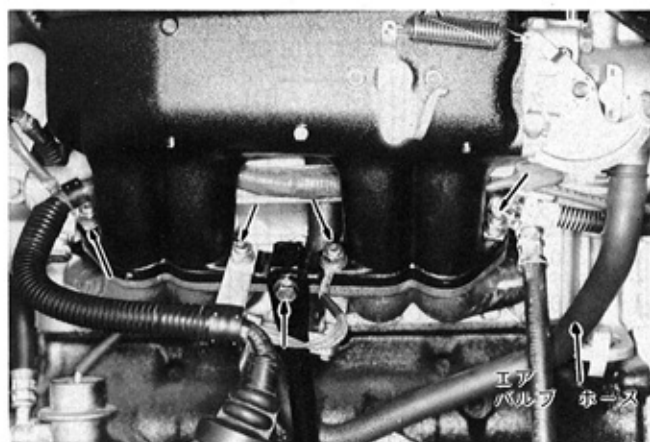


図5-21 サージ タンク取りはずし(2)

H4143

(2) サージ タンクより次の部品を取り
 はずす。

- ① スロットル ボデー
- ② テンション スプリング
- ③ アクセル ワイヤ サポート
- ④ ガス フィルタ
- ⑤ ユニオン

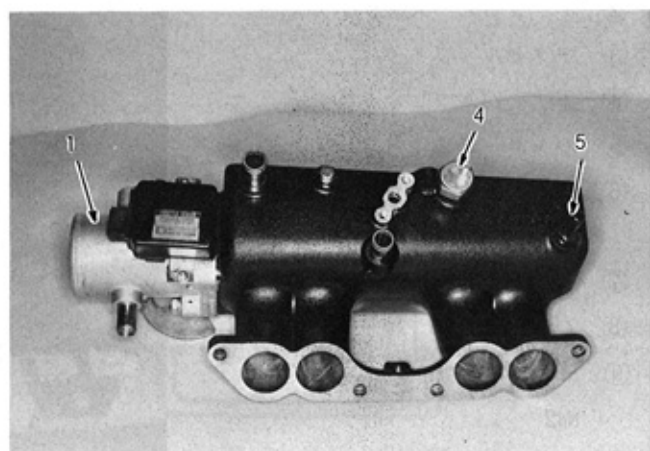


図5-22 サージ タンク分解

H4144

点 検

- (1) マニホールド取り付け面の傷, ひずみ

ひずみ限度0.1mm

—————(要点)—————

右図のように4箇所を測定する。

- (2) スロットル ボデー取り付け面の傷, 変形

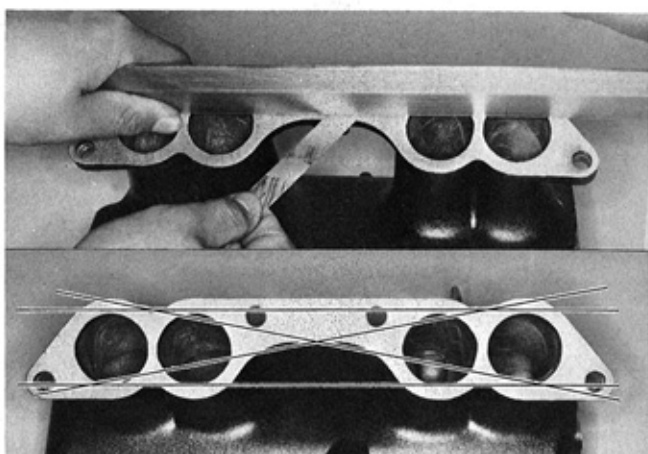


図5-23 ひずみ測定

H4145 H4146

取り付け

- (1) サージ タンクへ次の部品を取り付ける。

- ① ユニオン
- ② ガスフィルタ
- ③ アクセル ワイヤ サポート

—————(要点)—————

サポート側凸部をサージ タンク側凹に入れて取り付ける。

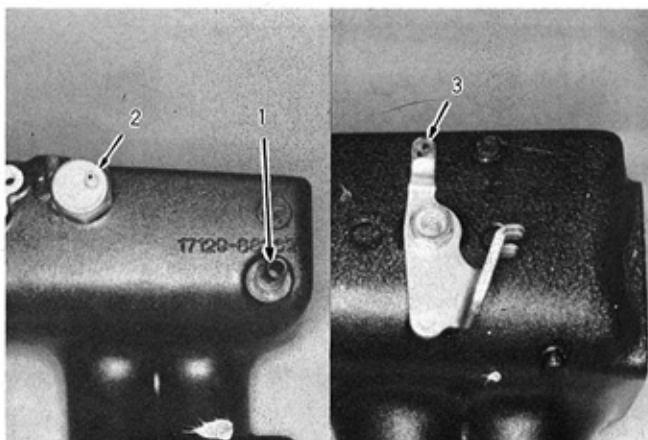


図5-24 サージ タンク組み付け

H4147 H4148

- ④ ガasketを介してスロットル ボデーを組み付ける。

T=100~160kg¹-cm

- ⑤ テンション スプリング

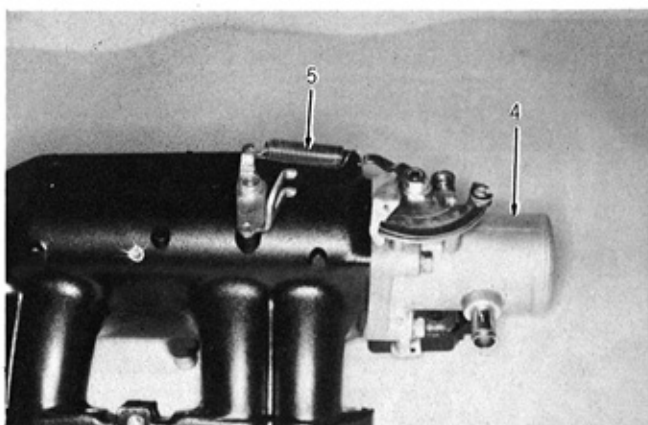


図5-25 スロットル ボデー取り付け

H4149

(2) 次の部品を取り付ける。

- ① ガasket
- ② サージ タンク ウィズ スロ
ツトル ボデー
T=190~250kg-cm
- ③ エア バルブ接続ホース
- ④ スロツトル ワイヤ

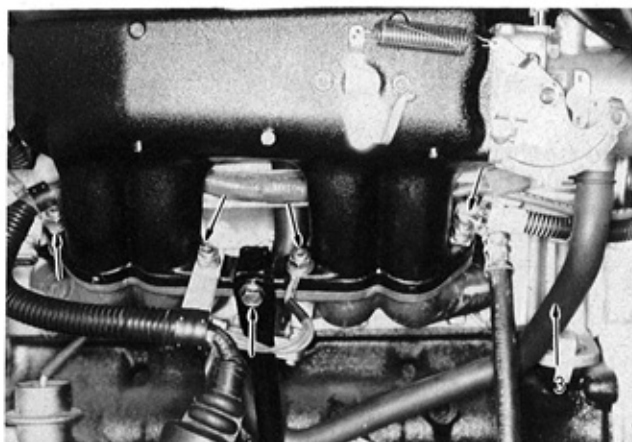


図5-26 サージ タンク取り付け(1)

H4143

- ⑤ スロツトル ポジション セン
サ用コネクタ
- ⑥ コールド スタート インジェ
クタ
T=50~70kg-cm

(注意)

ガasketを忘れないこと。

- ⑦ コールド スタート インジェ
クタ用コネクタ
- ⑧ 各ホース
- ⑨ サージ タンク ステア
- ⑩ エア クリーナ ホース
- ⑪ バッテリ ⊖ 端子
- ⑫ スロツトル ボデー ホース
No. 1, No. 2
- ⑬ 冷却水

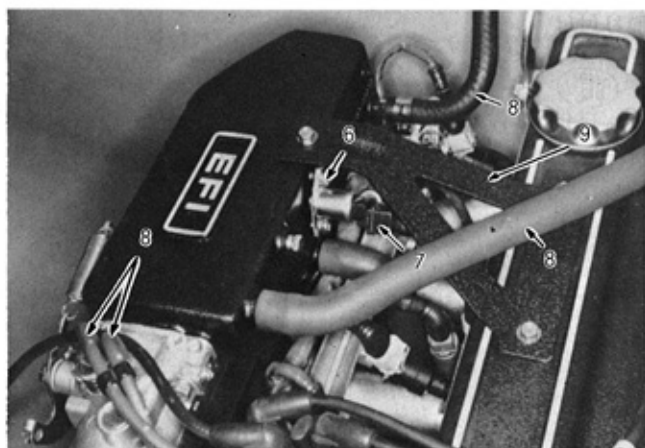


図5-27 サージ タンク取り付け(2)

H4150

インテーク マニホルド

(注意)

高圧フューエル ホース クランプの脱着については4-2ページ参照のこと。

取りはずし

- (1) 冷却水を抜く。
- (2) 次の部品を取りはずす。
 - ① バッテリ ⊖ 端子
 - ② エア クリーナ ホース
 - ③ サージ タンク ステー
 - ④ 各ホース
 - ⑤ スロットル ポジション センサ用コネクタ
 - ⑥ コールド スタート インジェクタ用コネクタ
 - ⑦ コールド スタート インジェクタへのフューエル ホース ユニオン ボルトをはずし燃圧を抜く。

(注意)

燃圧が残っているので、ウエスなどでガソリンが飛散するのを防ぐこと。

- ⑧ アクセル ワイヤ
- ⑨ エア バルブ接続ホース
- ⑩ サージ タンク & スロットル ボデー
- ⑪ エア バルブ用コネクタ
- ⑫ インジェクタ コネクタ
- ⑬ フューエル ホース (プレツシヤ レギュレータ)
- ⑭ デリバリ パイプ ウィズ インジェクタ
- ⑮ エア バルブ
- ⑯ インテーク マニホルド

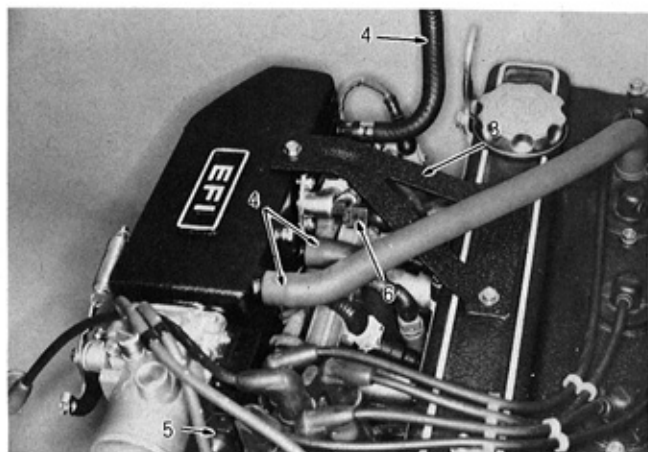


図5-28 インテーク マニホルド取りはずし

H4142

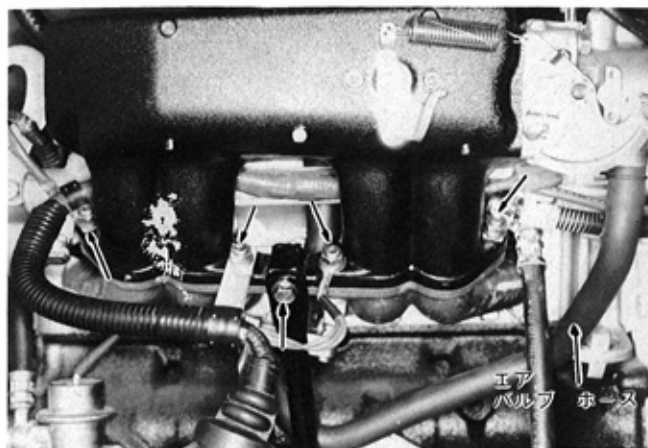


図5-29 サージ タンク取りはずし

H4143

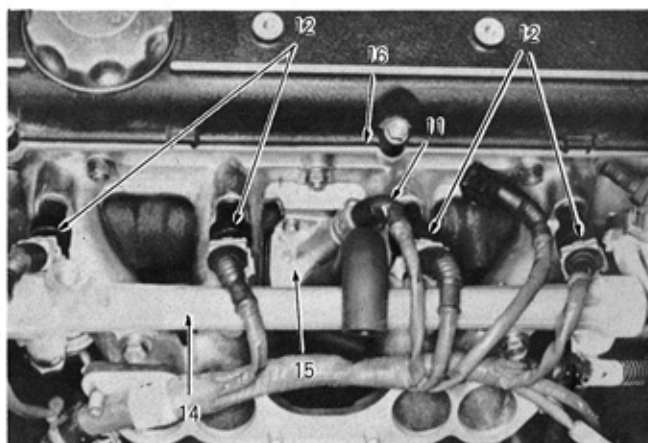


図5-30 デリバリ パイプ取りはずし

H4151

点 検

(1) 次の項目を点検する。

- ① き裂, 損傷
- ② 取り付け面のひずみ

限 度 0.1mm

(要点)

右図のように各面4個所で測定する。

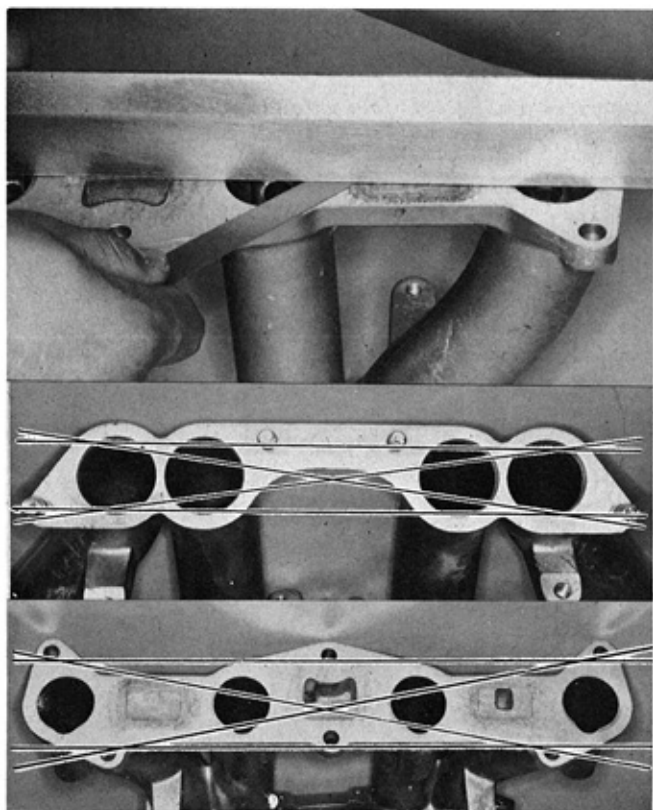


図5-31 インテーク マニホールド点検 H4152 H4153 H4154

取り付け

(1) 次の部品を取り付ける。

- ① インテーク マニホールド

T=160~220kg-cm

- ② エア パルプ

T=50~70kg-cm

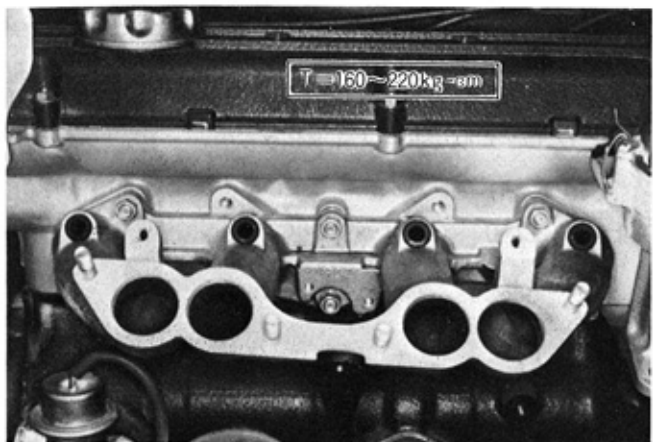


図5-32 インテーク マニホールド取り付け

H4155

- ③ デリバリ パイプ ウイズ インジェクタ

T=160~220kg-cm

(要点)

先にインジェクタ パイプレーション
インシュレータをインターク マニホル
ドに取り付けておく。

- ④ デイストリビュータ コネクタ
⑤ フューエル ホース ユニオン

T=260~340kg-cm

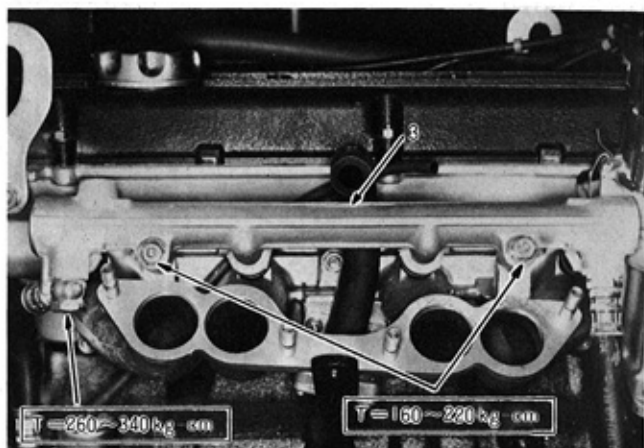


図5-33 デリバリ パイプ取り付け

H4132

- ⑥ インジェクタ用コネクタ
⑦ エア バルブ用コネクタ
⑧ サージ タンク & スロットル
ポデー

T=190~250kg-cm

- ⑨ エア バルブ接続ホース
⑩ コールド スタート インジェ
クタ フューエル ホース

T=260~340kg-cm

- ⑪ スロットル ワイヤ

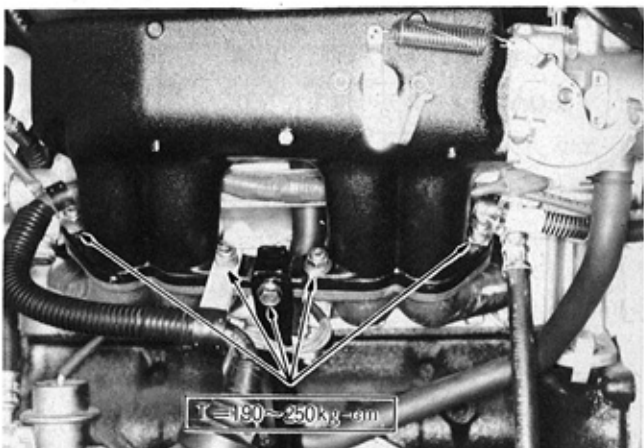


図5-34 サージ タンク取り付け

H4133

- ⑫ コールド スタート インジェクタ
T=50~70kg-cm

- ⑬ コールド スタート インジェ
クタ用コネクタ

- ⑭ スロットル ポジション セン
サ用コネクタ

- ⑮ 各ホース

- ⑯ サージ タンク ステア

- ⑰ エア クリーナ ホース

- ⑱ バッテリー ⊖ 端子

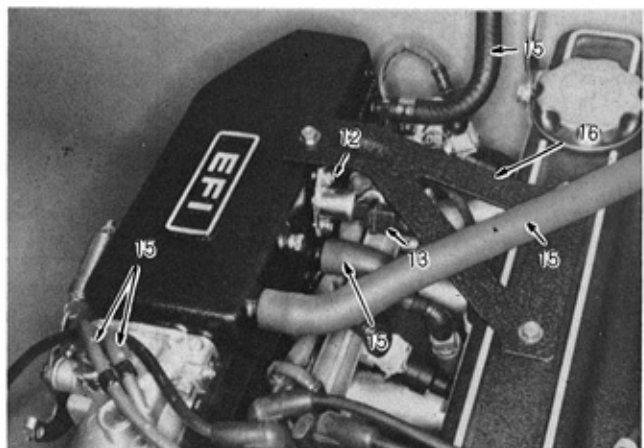


図5-35 各部品取り付け

H4150

- (2) 冷却水を入れる。

サーキット オープニング リレー

車上点検

(1) 作動音点検

- ① クランキングの開始と同時にカチツという作動音がすればよい。
- ② フューエルポンプの短絡用端子を短絡すると同時にカチツという作動音がすればよい。

(注意)

リレーはE-TE55, 65系, E-TA系は右カウルサイド, E-TE71系はグローブボックス上部にある。

(2) システム点検

クランキングの開始と同時にF_P端子が0V→バッテリー電圧になりエンジンがまわりだしてからも電圧が維持されること。

(参考)

クランキングを開始すると同時にF_Cの端子電圧が0Vになれば, エアフローメータのポンプ S/Wは良好である。

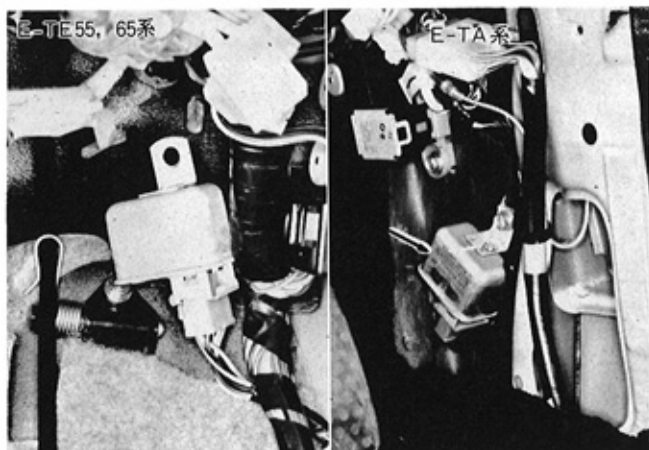


図5-36 サーマイト オープニング リレー

H4162 H4163

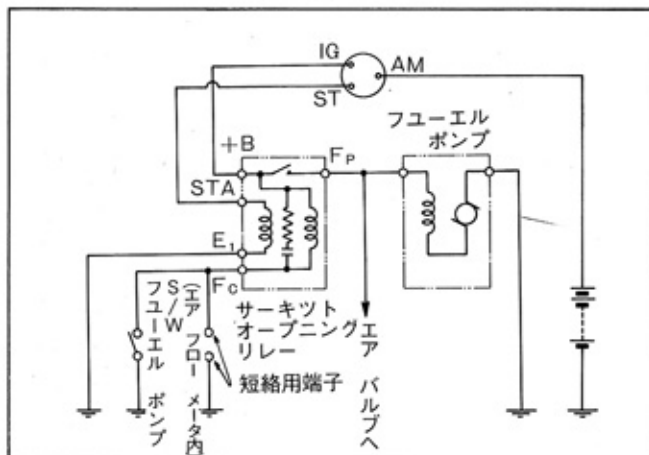


図5-37 回路図

M5817

(3) 抵抗測定

コネクタをはずし次の端子間の抵抗を測定する。

- STA ↔ E₁ 30~60Ω
 +B ↔ F_C 80~120Ω
 +B ↔ F_P ∞Ω

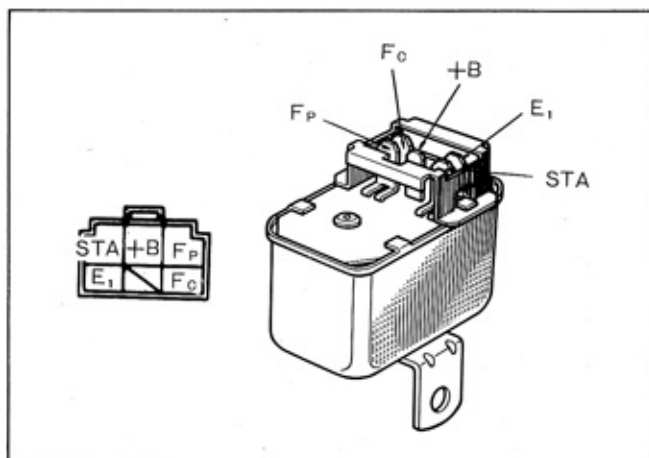


図5-38 リレー端子

S8318

スタート インジェクタ タイム スイッチ

車上点検

(1) 抵抗測定

コネクタ（茶色）をはずし端子間の抵抗を測定する。

STJ ↔ STA

20～40Ω（冷却水温35℃以下）

40～60Ω（冷却水温35℃以上）

(2) 導通点検

温間時、冷間時にかかわらずSTA

↔ ボデー間に導通があること。

（0Ωではない）

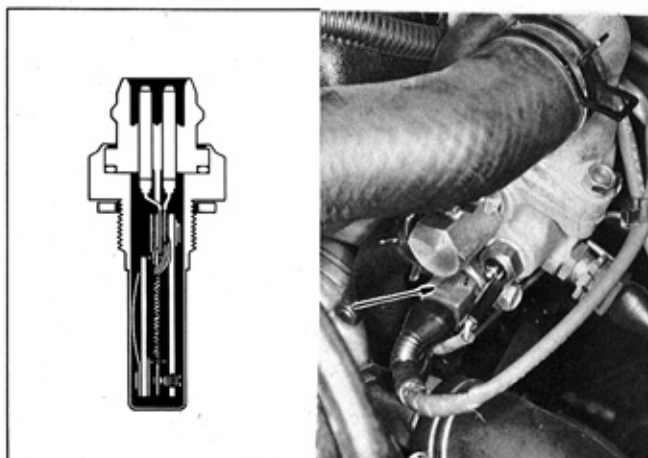


図5-39 取り付け位置

M6775 H4156

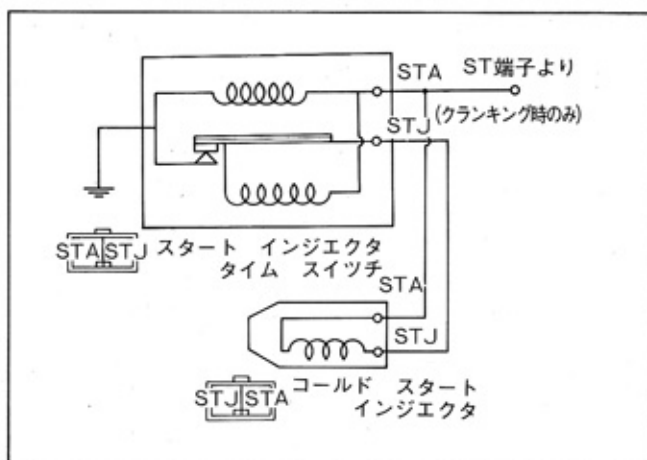


図5-40 リレー回路図

M5822

エア バルブ

車上点検

(1) システム点検

アイドル状態でエア バルブのエアホースをふさいだとき次のようになればよい。

冷間時〔雰囲気温約60℃以下〕

アイドル回転数が落ちること。

温間時〔雰囲気温約60℃以上〕

アイドル回転数が著しく落ちないこと。（200rpm以内であればよい）

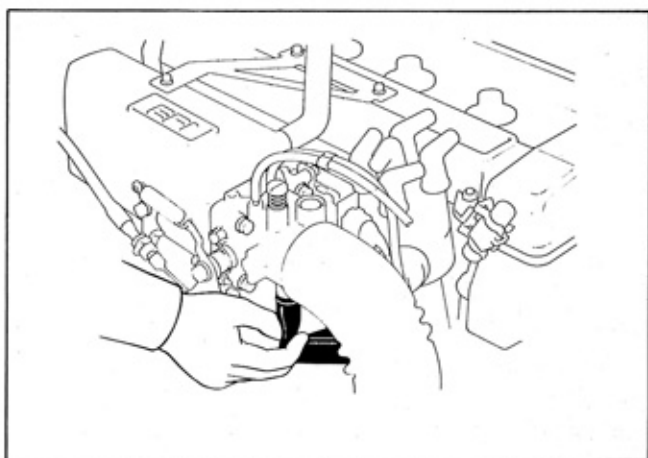


図5-41 エア バルブ作動点検

M6064

(2) 作動点検

エア ホースをはずし目視でバルブが開いているか、閉じているかを点検する。

- ① 雰囲気温が約20℃のとき右図のようにバルブが開いていること。
- ② 暖機後バルブが全閉していること。(全閉していても少々のエア漏れはある。)

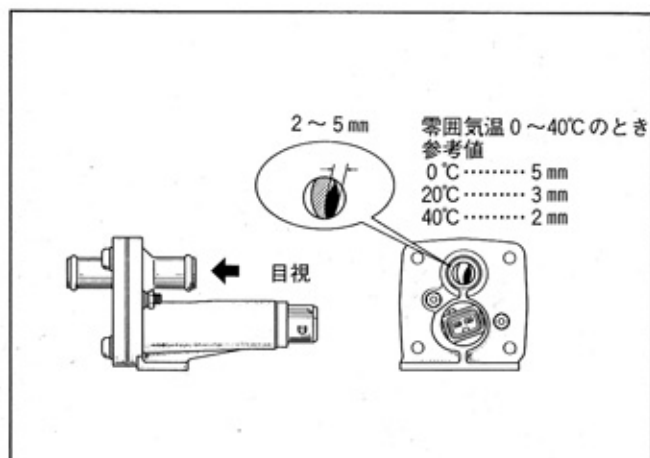


図5-42 目視点検

M5780

(3) 抵抗測定

コネクタをはずし端子間の抵抗を測定する。

$F_p \leftrightarrow E_1$ (雰囲気温約20℃)
50~65Ω

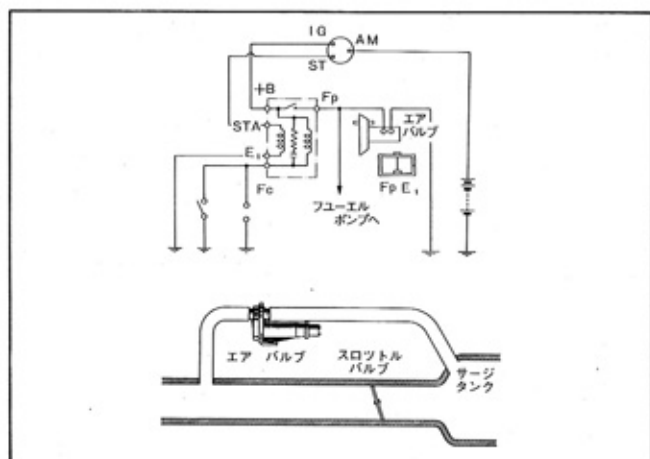


図5-43 系統図

M5831 M2806

メイン リレー

車上点検

(1) 作動音点検

イグニション スイッチをONにしたときメイン リレーにカチツという作動音のすることを確認する。

(注意)

リレーはE-TE55, 65系, E-TA系は左フエンダ エブロン部, E-TE71系はバッテリー後方ヒューズ & リレー ブロック内にある。

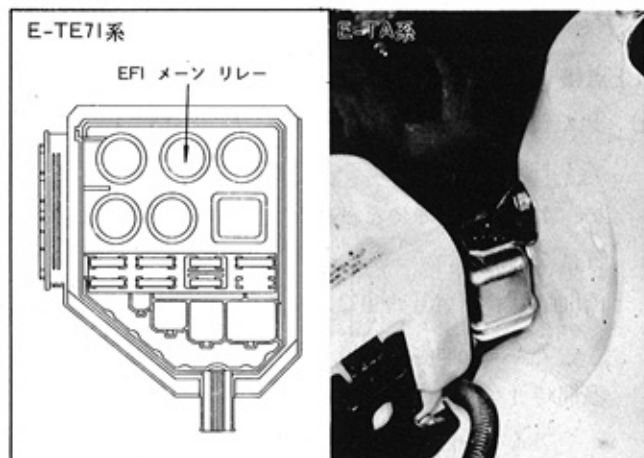


図5-44 取り付け位置

M8507 H4158

(2) システム点検

[E-TE55, 65系, E-TA系]

イグニション スイッチを ON にしたときメイン リレーのコネクタ 2 番, 4 番端子にバッテリー電圧があればよい。

(3) コネクタをはずし次の点検をする。

[E-TE55, 65系, E-TA系]

① 端子間抵抗

- 1 ↔ 2 $\infty \Omega$
- 3 ↔ 4 $\infty \Omega$
- 5 ↔ 6 40~60 Ω

② 5 ↔ 6 端子間にバッテリー電圧を直接加えたとき次の端子間の導通を点検する。

- 1 ↔ 2 0 Ω
- 3 ↔ 4 0 Ω

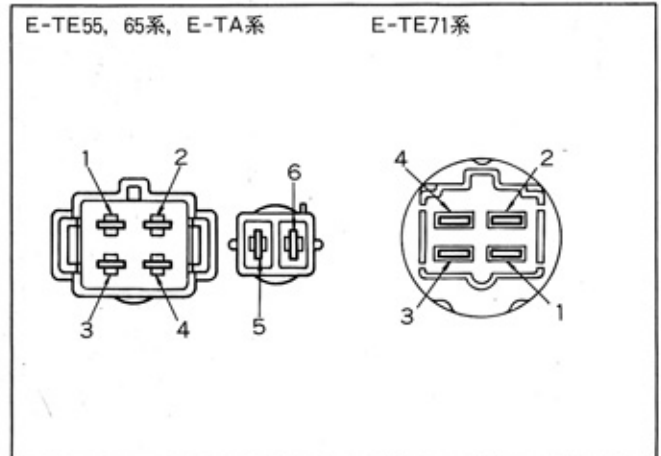


図5-45 メイン リレー コネクタ

M5832 M9643

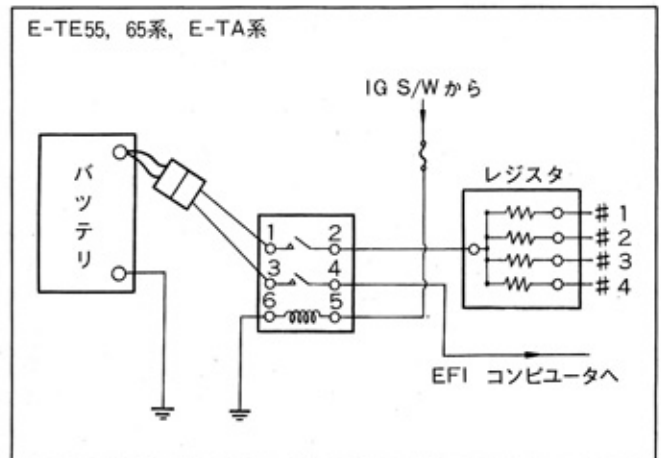


図5-46 回路図

M2916

[E-TE71系]

① 端子間抵抗

- 1 ↔ 2 約60 Ω
- 3 ↔ 4 $\infty \Omega$

② 1 ↔ 2 端子間にバッテリー電圧を直接加えたとき 3 ↔ 4 端子間の導通を点検する。

- 3 ↔ 4 0 Ω

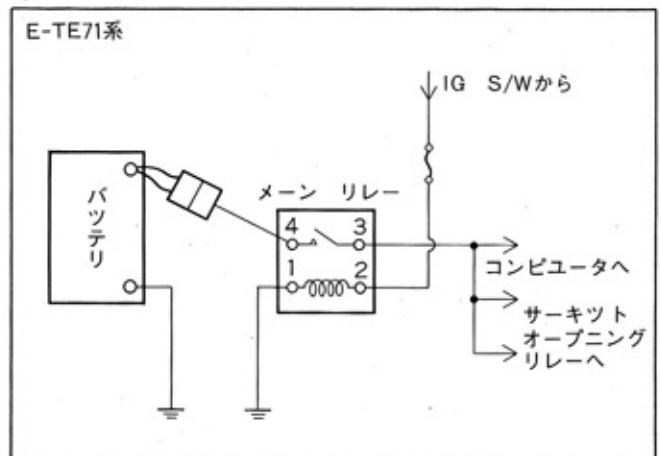


図5-47 回路図

M9810

水温センサ

車上点検

(1) 抵抗測定

コネクタ（緑色）をはずして水温センサの端子間の抵抗値を測定する。

THW ↔ E₂

水温(℃)	抵抗値(KΩ)
-20	10~20
0	4~7
20	2~3
40	0.9~1.3
60	0.4~0.7
80	0.2~0.4

点検

氷を入れた水の中に水温センサを入れ、徐々に加温して

温度 ↔ 抵抗値

の相関を点検する。

(抵抗値は前記の表参照)

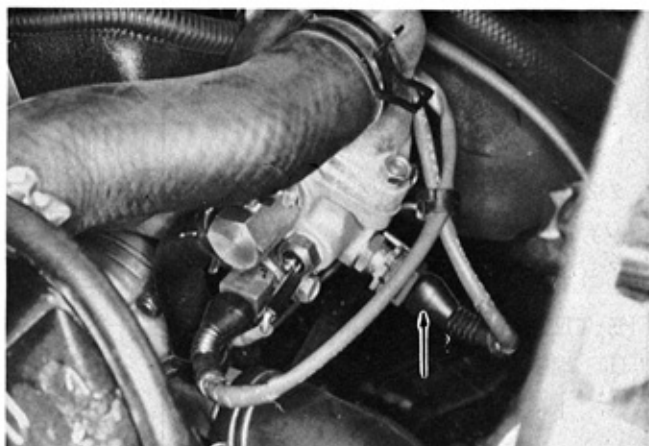


図5-48 取り付け位置

H4156

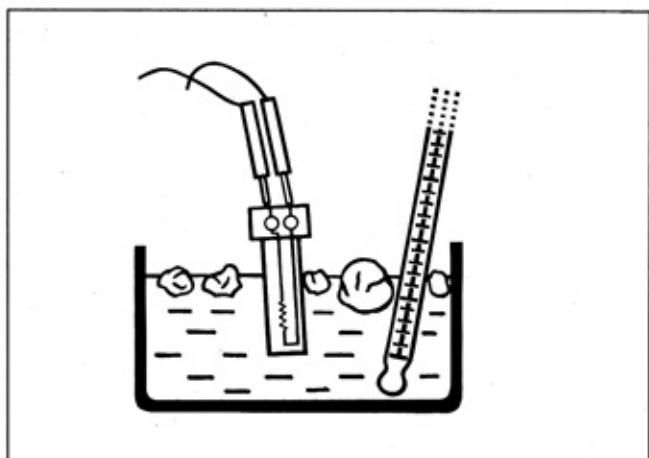


図5-49 | 水温センサの点検

S8324

ソレノイド レジスタ

車上点検

コネクタをはずしレジスタの端子間の抵抗を測定する。

+B ↔ #1 ~ #4

各 5 ~ 7 Ω

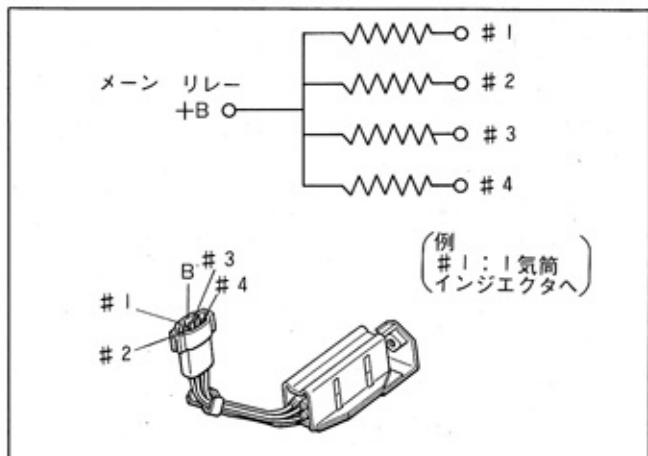


図5-50 レジスタ端子

M5833 M2809

コンピュータ

取り付け位置

[E-TE55, 65系, E-TA系]

左カウル サイド内

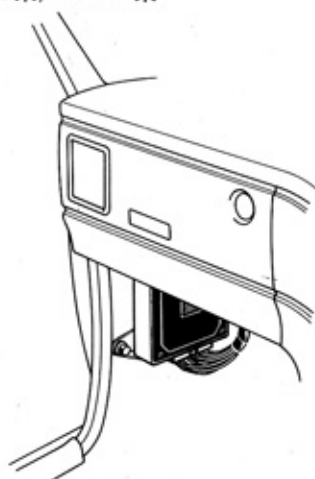
[E-TE71系 セダン]

アツパ コンソール内

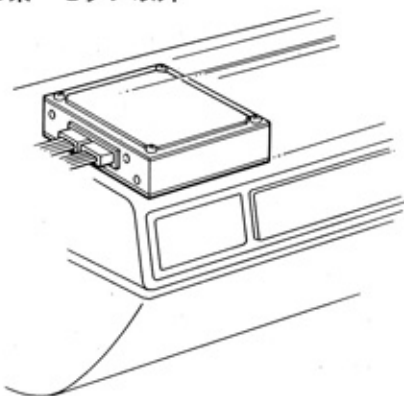
[E-TE71系 セダン以外]

グローブ ボックス上部

E-TE55, 65系, E-TA系



E-TE71系 セダン以外



E-TE71系 セダン

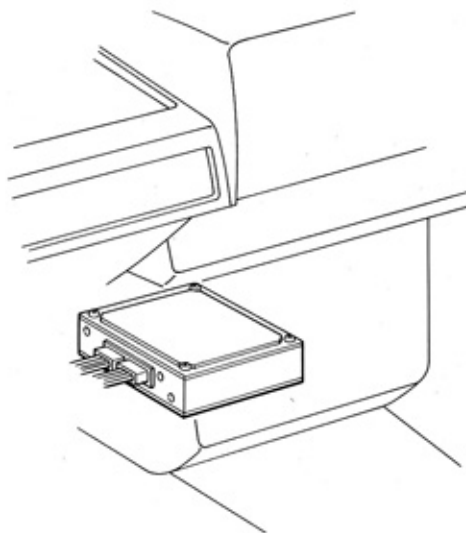


図5-51 コンピュータ取り付け位置

M5834 M9646 M9645

E-TE55, 65系, E-TA系

IG	E ₁	V _S	V _B	STA		PSW	TL	THA	THW	OT
+B	E ₂	V _C		O _X	IDL	V _F	#10	#20	E ₀₁	E ₀₂

E-TE71系

E ₂	V _S		V _C	O _X
IG	E ₁	V _B	+B	STA

IDL	PSW	TL		V _F	OT	THW
		THA	#10	#20	E ₀₁	E ₀₂

図5-52 コンピュータ コネクタ端子配列

M0396 M9644

コンピュータ (制御系統)

サーキット テスタによる点検

(1) 電圧測定 (イグニッション スイッチ ON, コネクタは接続しておく)

イグニッション ⊖ 信号	IG↔E ₁	約4~6 (クランキング時) 約6~7.5 (アイドル回転時) 約8.5~10.5 (3000rpm)
バッテリー電圧	+B↔E ₁	約12
エアフロー メータ	V _s ↔E ₂	約1.5 (メジャーリング プレート全閉時) 約6.5 (メジャーリング プレート全開時) 約4 (アイドル回転時)
	V _c ↔E ₂	約6~7
	V _a ↔E ₂	約10
スタータ信号	STA↔E ₁	約9~11 (クランキング時)
スロットル ポジション センサ	IDL↔E ₁	約10 (スロットル バルブ全閉時) 0 (スロットル バルブ全開時)
	PSW↔E ₁	0 (スロットル バルブ全閉時) 約10 (スロットル バルブ全開時)
	TL↔E ₁	約10
噴射信号	#10↔E ₁	約12
	#20↔E ₁	約14 (アイドル回転時) 約13 (3000rpm)
吸気温センサ	THA↔E ₂	約5 (吸入空気温度 20℃)
水温センサ	THW↔E ₂	約1.8 (冷却水温 80℃)
空燃比補償装置 (O ₂ センサ)	V _F ↔E ₁	約4~10で10秒間に8回以上振れる。 (暖機後, 2500rpmで90秒間レーシングして, その後) (2000rpmで保持する。)

(単位: V)

(2) 抵抗測定

(測定要領)

IG/SWをOFFにし、コネクタをコンピュータからはずし端子間の抵抗を測定する。

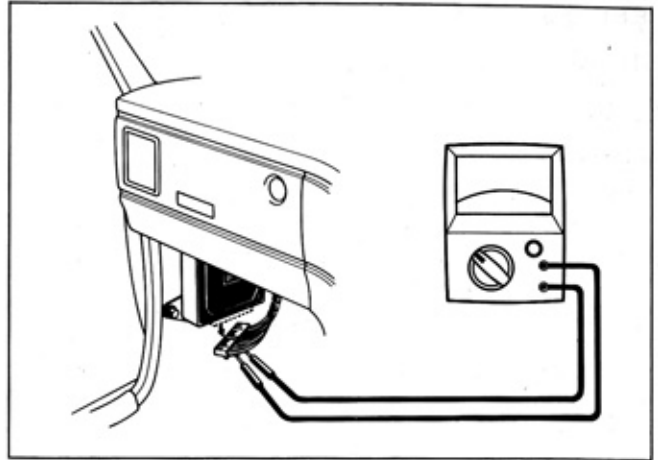


図5-53 テスタ棒のさし込み方法

M5835

測定端子	測定条件	基準値		
スロットル ポジション センサ	TL ↔ IDL	スロットル バルブ全閉	0 Ω	
		スロットル バルブ全開	∞ Ω	
	TL ↔ PSW	スロットル バルブ全閉	∞ Ω	
		スロットル バルブ全開	0 Ω	
	IDL TL ↔ ボデー PSW ↔ アース	—	∞ Ω	
水温センサ 吸気温度センサ	THW ↔ E ₂ THA ↔ E ₂	水温 吸気温 (℃)	-20	10 ~ 20 KΩ
			0	4 ~ 7 KΩ
			20	2 ~ 3 KΩ
			40	0.9 ~ 1.3 KΩ
			60	400 ~ 700 Ω
			80	200 ~ 400 Ω
エアフロー メータ	V _B ↔ E ₂	—	200 ~ 400 Ω	
	V _C ↔ E ₂	—	100 ~ 300 Ω	
	V _S ↔ E ₂	メジャーリング プレート全閉	20 ~ 60 Ω	
		メジャーリング プレートを全閉からゆつくり開けていく。	20 ~ 1000 Ω (波状に変化しつつ) 大きくなる。	
O ₂ センサ	O _x ↔ ボデー ↔ アース	冷間時	ほぼ ∞ Ω	
		温間時	∞ Ω または 0 Ω でないこと。	
アース回路	E ₁ E ₂ ↔ ボデー E _{O1} ↔ アース E _{O2}	—	0 Ω	

EEI チェツカによる点検

(1) EFI チェツカ接続

① イグニッション スイッチをOFFにする。

② コンピュータからコネクタを切り離し、チェツカのワイヤハーネスを接続す。

SST [09991-00091]

E-TE71系のみ

[09991-00120]

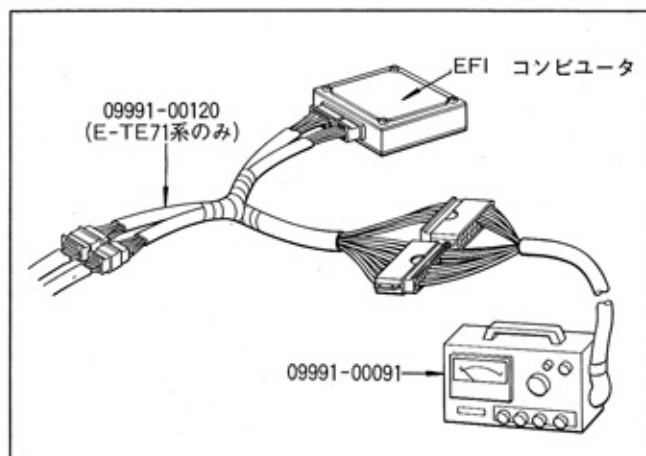


図5-54 EFI チェツカ接続

M9647

(2) 点検

① イグニッション スイッチをONにして点検する。

測定項目		① ロータリ S/Wの位置 ② プッシュ ボタンの操作	正しい指示値	
バッテリー電圧		① 電源	約12V	
スロットル ポジション センサ	パワー S/W	① 抵抗測定 ② パワー S/Wを押す。	アクセル踏まず	∞ K Ω
	アイドル S/W	① 抵抗測定 ② アイドル S/Wを押す。	アクセルをいっぱい踏む	0 K Ω
水温センサ	① 抵抗測定 ② 吸気温センサを押す。	80℃……………0.2~0.4K Ω 60℃……………0.4~0.7K Ω 40℃……………0.9~1.3K Ω 20℃……………2~3 K Ω 0℃……………4~7 K Ω		
吸気温センサ	① 抵抗測定 ② 吸気温センサを押す。	80℃……………0.2~0.4K Ω 60℃……………0.4~0.7K Ω 40℃……………0.9~1.3K Ω 20℃……………2~3 K Ω 0℃……………4~7 K Ω		
エアフローメータ 出力電圧比	① U_a ② adj 10Vで目盛りを10Vに合わせて U_a/U_s を押す。	エンジン停止時	3.8~5.8V	
スタータ作動時電圧	① スタータ	エンジン を回す	アイドル回転時 3000rpm	2.5~5.5V 0.5~1.1V
		スタータを回す		8~11V
イグニッション \ominus 信号	① イグニッション	クランキング時		4~6 V
		エンジン を回す	アイドル回転時 3000rpm	6~7.5V 8.5~10.5V
噴射信号	① 噴射信号	エンジン停止時		約12V
		エンジン を回す	アイドル回転時 3000rpm	約14V 約13V
発光ダイオードの表示	イグニッション	エンジン停止	エンジン回す	
	噴射信号	点灯または不灯	点 滅	
	噴射信号	不 灯	点 滅	
	Tr チェック	不 灯	不 灯	

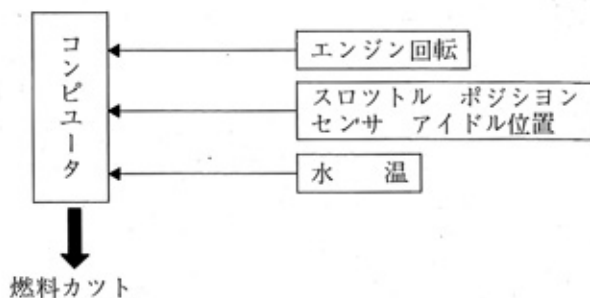
フューエル カット機能点検

エンジン ブレーキ時のフューエル
カット機能を点検する。

- (1) エンジン暖機 (80℃)
- (2) スロットル ボデー ↔ エア バ
ルブ間のホースをエア バルブ側
ではずす。
- (3) エア バルブ ↔ サージ タンク
間のホースをサージ タンク側で
はずす。
- (4) (2)ではずしたホースをサージ タ
ンクのユニオンへ接続する。
- (5) エンジンを始動したとき回転が約
1300~1700rpm の範囲でハンチン
グを繰り返すことを確認する。

燃料カット回転数

約1700rpm



× ㊦